

こんな先生
いるよ!

薬学部 薬学学科 教授
まの やすなり
真野 泰成
先生



「既存の医薬品の有効性と安全性を高める『育薬研究』」

「くすりを育てる」研究とは

どのような研究をされていますか。

事前に薬効と安全性が評価され市販になった医薬品でも、小児、高齢者や妊婦、あるいは他の薬を服用中の方など多様な患者が使用することで新たな副作用や相互作用（飲み合わせ）が見つかることがあります。

当研究室では、医療現場で薬物治療を行う際の問題点を把握し、ラットを用いた薬物動態実験と医療ビッグデータをを用いたデータサイエンスによる二刀流で、これらの副作用や相互作用などを抽出・解析。薬を安全かつ有効に使用するための知見を構築し、医療現場へフィードバックしています。こうした「育薬研究」には、既存薬から新たな薬効を見いだすドラッグ・リポジショニング研究も含まれます。

薬剤師の経験を教育に活かす

育薬研究者となったきっかけは。

理科大薬学部の修士課程修了後、地元北海道で病院薬剤師として2年勤務しました。より積極的に医療現場で患者の薬物治療に関わりたいと考え、金沢大学病院へ転職。金沢大学病院では主に内科病棟で医師や看護師と共に入院患者のフォローを行い、臨床現場で実務経験を積みながら、さらに博士課程に進んで研究も同時に進めていました。

薬剤師に求められることは、専門知識だけでなく患者さん一人ひとりの投薬設計で

あり、細かなことまで見逃さない観察眼です。そういったことが、投薬の問題点や想定外の効果などの発見には重要で、現在の「育薬研究」にもつながっています。

学生に教えるのが好きで、教育の道にも興味を持ち始めていた頃、ちょうど薬剤師を目指す薬学教育が6年制に移行し、ご縁があつて栃木県にある新設の薬科大学の教員になりました。その後、2015年に母校である理科大へ赴任して今に至ります。

薬学科では、5年生での臨床実習を前に、4年生時に学内の模擬薬局でトレーニング実習を行っており、その際の学生指導には自身の薬剤師としての経験が活かされています。こだわりのコーヒーに癒やされる

趣味を教えてください。

コーヒーが好きでYouTubeを見ながら「何グラム計って何秒間で落とせばどういう味になるか」を検証し、好みの淹れ方を見つけてました。プロが使うストップウォッチ付きの量りも持っています。最近、学生たちから豆をプレゼントされ、ついにコーヒーミルを購入しました。挽きたての格別感を知り、ますますハマっています。

また、卒業生たちと集まる「真野研同門会」を年に1回開催しており、それも楽しみの一つです。昨年2024年には10周年を迎え、研究室のキャッチフレーズ入りハンドタオルを記念に作成しました。真野研から誕生した夫婦はこれまでに3組。「真野ファミリー」はどんどん増えています。

藤沢享乃（シェイクリエイト）

【写真左】実習中は学生の眼差しも真剣そのもの
【写真中】「真野研同門会」に集まった卒業生たち（2025年9月）
【写真右】コーヒーは自宅で淹れるのもカフェに行くのも好きだという

